

日本生物学オリンピックに出場した3年 長瀬さんにお話を聞きました。

・参加したきっかけは何ですか？

1、2年生の時に出場した科学の甲子園がきっかけです。県外の高校生との交流会があり、そこで生物が好きな人と話げできました。その時間がとても楽しかったのですが、交流の時間が短く、もう一度その時間を味わいたいと思い参加を決めました。

・生物学オリンピックはどのような内容でしたか？

3泊4日の合宿形式で、実験技能、データ処理、知識問題など様々な問題に取り組みました。また、合宿だったこともあり、夜遅くまで県外の生徒と話をしました。生物用語を使ったゲームをしたり、自分の好きな生き物について語り尽くしたり、朝の4時まで話をした日もありました。学校では入試を軸としたカリキュラムになっているためどうしても科学それ自体に興味をもっている人は多数派ではありません。ですが、生物学オリンピックは生物の大好きな人が集まる場所で、その中の一員でいられたのは幸せでした。

・生物学オリンピックに向けてどのような準備をしましたか？

特に準備はしていませんが、「キャンベル 生物学」という本を読みました。あとは、学校でもらった資料集や参考書などを使いました。普段から「どうしてなのか」「なぜこの現象がおこるのか」という疑問は忘れないようにしていました。

・将来 研究したいことはどんなことですか？

原因が分からない病気を生物学の視点から研究したいです。自分が罹患している病気の形質が魚で発見されたことがあり、そこに今は興味をもっています。魚などの生物と人間の共通点はきっとあると思います。魚などを研究対象にして、最終的には自分の病気の原因を探っていきたいです。その他にも、生物の面白さを広める活動もしたいように感じます。

インタビューでは、学校では少数派として思われがちな科学好きの人たちにも、各分野のオリンピックに参加して県外の生徒と交流してほしいという思いも話してくれました。一方で、科学の甲子園などで先生方が積極的にサポートしてくれるという北高の強みも感じたそうで刺激のある4日間だったことが伺えました。将来は、研究者として活躍してほしいと思います。